

令和元年度
(2019年度)

事業報告書



公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団

目 次

1	総括報告	1
2	各事業の実施概要	
	(1) 公益目的事業	
	① 奨学事業	2
	② 留学事業	5
	③ 学生寮管理運営事業	5
	④ 国際交流・協力事業	6
3	役員会等の開催	
	(1) 理事会の開催状況	12
	(2) 評議員会の開催状況	14
	(3) 各種専門委員会の開催状況	15
4	寄附金の受け入れと基金の設置	
	(1) 令和元年度寄附金の受入	16
	(2) 寄附金の実績	16
	(3) 既設篤志奨学基金の追加寄附	17
	(4) 既設篤志奨学基金一覧	17
	(5) 基金造成状況	24
5	評議員・役員	
	(1) 評議員	25
	(2) 役員	25

1 総 括 報 告

本財団は、「人を樹うるに如くは莫し」（一生涯での計画を立てようとするならば人材を育成するに越したことはない。）を理念として、沖縄県内に住所を有する者の子弟のうち、学業成績優秀な学生または、生徒で経済的理由によって修学困難な者に対し、学資を貸与または、給与するとともに留学助成、研究助成その他必要な事業を行っています。また、海外からの留学生等の受入れ、その他国際交流・協力に関する事業を行い、もって本県の教育、文化及び産業の発展に資する国際性豊かな有為な人材の育成並びに国際交流・協力拠点の形成を図ることを目的として各事業を推進してきました。

このような事業目的へ賛同された企業、団体、個人等から今年度は5, 554千円のご寄附を賜りました。

また、ご寄附の受け入れにより、既存の篤志基金に2件の積み増しがありました。

基金の活用としては、国、県、関係機関、ご寄附を頂いた方々のご協力をいただき、奨学金の貸与、国際交流・協力に関する事業へ充当いたしました。

全体収入と事業実施については、沖縄県からは133, 596千円の補助を受け、学生寮の運用、高校生への奨学金貸与、当財団の事業推進に係る管理運営並びに人件費として支出しました。

本年度の収入総額は、1, 909, 643千円となり前年度より11, 135千円の減となりました。

各事業については、奨学事業のうち貸与事業では高校・大学生等1, 704人に奨学金を貸与し、給付事業では、企業、団体からの委託により大学院生、工業高校生7人、並びに米国留学生、施設内大学ブリッジプログラム及び専修学校（専門課程）生366人に奨学金を給付しました。また、返還金回収業務では13, 019人に返還通知・督促を行い11, 084人から返還があり、その結果、回収予定額に対する返還額の割合は78. 86%となり、前年度より0. 9%減少しました。

県外学生寮の平成31年4月末日現在の在寮生数は、南灯寮が定員47人に対し33人、沖英寮が定員20人に対し17人、大阪寮は定員13人に対し4人となっています。

国際交流促進事業のうち、ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業では沖縄県出身移住者の子弟等12人を県内大学又は企業等へ留学又は研修させ、医療通訳ボランティア養成及び紹介事業では延べ61人に対し養成講座等を実施し、災害時外国人サポーターの養成及び紹介事業では延べ325人に対し養成講座等を実施しました。その他、国際交流に関する事業を行っている各種団体への助成や外国人による日本語弁論大会などを開催しました。

2 各事業の実施概要

(1) 公益目的事業

① 奨学事業

本県の教育、文化及び産業の発展に資する有為な人材を育成することを目的に、学業に優れた生徒及び学生で、経済的理由により修学が困難と認められる者に対し、奨学金の貸与又は給付を行った。

対象として、高校、高等専門学校、専修学校（高等課程・専門課程）・大学・大学院及び国外の大学又は大学院に在学する、沖縄県に住所を有する者の子弟である。

奨学金の主な財源の内訳は、貸与奨学金が返還金（97.06%）、基金の利息（2.65%）、延滞金（0.25%）及び寄附金（0.04%）で、給付奨学金は、委託給付金（0.55%）、米国総領事館助成金（4.7%）及び国からの補助金（94.75%）となっている。

ア 奨学金貸与人員及び貸与額

区 分		貸与人員			貸与額(単位:千円)			財源(単位:円)	
		当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減		
国内	高校育英奨学事業	1,306	(1,628)	△322	313,507	(388,394)	△74,887	①返還金	311,330,000
	高等学校生	1,289	(1,612)	△323	307,087	(382,424)	△75,337	②延滞金	2,177,000
	専修学校(高等課程)生	17	(16)	1	6,420	(5,970)	450	(小計)	313,507,000
	高等学校奨学事業							①返還金	7,620,000
	高等学校生	31	(48)	△17	7,620	(11,328)	△3,708		
	奨学金貸与事業	367	(414)	△47	206,742	(232,161)	△25,419	①篤志奨学基金利息	164,000
	高等専門学校生	6	(6)	0	1,512	(1,386)	126	②人材育成寄附金利息	42,000
	専修学校(専門課程)生	20	(23)	△3	12,120	(13,170)	△1,050	③使途特定寄附金	250,000
	大学生	310	(347)	△37	175,630	(196,345)	△20,715	④返還金	206,286,000
	大学院生	10	(12)	△2	8,640	(10,320)	△1,680	(小計)	206,742,000
	在沖縄米軍施設・区域内大学院生・大学生	2	(3)	△1	680	(1,160)	△480		
	県出身海外移住者子弟留学生	1	(1)	0	840	(840)	0		
国外	大学院生・大学生	18	(22)	△4	7,320	(8,940)	△1,620		
合 計		1,704	(2,090)	△386	527,869	(631,883)	△104,014	(合計)	527,869,000

イ 奨学金貸与月額一覧表

単位:円

種別		区分	貸与月額
・ 高等学校生 ・ 専修学校高等課程生	自宅通学	国公立	18,000
		私立	30,000
	自宅外通学	国公立	23,000
		私立	35,000
・ 高等専門学校生	県内	国公立	21,000
		私立	32,000
	県外	国公立	22,500
		私立	35,000
・ 専修学校専門課程生 ・ 大学生	県内	国公立	40,000
		私立	45,000
	県外	国公立	45,000
		私立	55,000
・ 大学院生	修士・博士前期課程		70,000
	博士後期課程		80,000
	修士医・歯・獣医学課程		80,000
	一貫制博士課程	1～2年次	70,000
		3～5年次	80,000
・ 在沖縄米軍施設区域内大学生	短期大学生・大学生 ・ 大学院生		40,000
・ 県出身海外移住者子弟留学生	国公立大学生		40,000
	私立大学生		45,000
	大学院生		70,000
・ 国外大学生・大学院生	アジア地域		40,000
	アジア以外の地域		60,000

ウ 委託奨学金給与人員及び給与額

単位：人、千円

区分		給与人員			給与額		
		当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減
国内	高校	2	(2)	0	200	(200)	0
	大学院	5	(5)	0	600	(600)	0
合計		7	(7)	0	800	(800)	0

エ 委託奨学金給与の財源

	給与額(1人当たり)	財 源 (受託金)
高校	10万円	沖縄県工業連合会 (200,000円) (オクレスビー氏産業開発基金)
大学	12万円	琉球銀行 (360,000円) 沖縄銀行 (240,000円)
計		800,000円

オ 米国総領事館助成事業

単位：人、円

区分	給与人数	給与額	財源
米国留学生	2	2,135,610	米国総領事館助成金 6,812,676
ブリッジプログラム	20	4,677,066	
合計	22	6,812,676	

カ 専修学校奨学金給付事業

単位：人、円

区分	種別	給与月額	給与人数	給与額	財源
専修学校(専門課程)	私立・自宅通学	30,000	214	76,020,000	国補助金 137,450,000
	私立・自宅外通学	40,000	130	61,430,000	
合計			344	137,450,000	

キ 奨学金の返還状況

単位：人

単位：円

	単位：人				単位：円		
	当年度	前年度	増減		当年度	前年度	増減
返還対象者	13,763	(13,882)	△119	返還予定額	1,200,594,786	(1,191,229,906)	9,364,880
返還猶予者	744	(844)	△100	返還猶予額	73,724,475	(81,959,837)	△8,235,362
要返還者	13,019	(13,038)	△19	回収予定額	1,126,870,311	(1,109,270,069)	17,600,242
返還者	11,084	(10,976)	108	返還済額	984,137,411	(991,733,681)	△7,596,270
【前払い者】	【299】	【292】	【7】	【前払い額】	【95,456,736】	【106,948,334】	-【11,491,598】
滞納者	1,935	(2,062)	△127	返還率	78.86%	(79.76%)	△0.90%
一部滞納者	1,676	(1,841)	△165	滞納額	238,189,636	(224,484,722)	13,704,914
全額滞納者	259	(221)	38				

② 留学事業

国際化時代における本県の振興、自立発展を担う高度な専門性・国際性を備えた有為な人材の育成を図るため、米軍施設・区域内大学就学希望者の推薦事業を実施した。

ア 在沖縄米軍施設・区域内大学就学者推薦事業

平成31年度の就学希望者を対象に、令和元年5月11日に第1次選考試験（筆記）、6月8日に第2次選考試験（面接）を行い、大学2人及びブリッジプログラム41人の計43人を県内にある米軍施設・区域内大学へ推薦した。

在沖縄米軍施設・区域内大学就学者推薦事業費の内訳

単位：人

推薦区分	推薦者人数			学費等
	当年度	前年度	増減	
短期大学	0	(0)	0	学費自己負担
大学	2	(4)	△2	
大学院	0	(0)	0	
ブリッジプログラム	41	(40)	1	
合 計	43	(44)	△1	

③ 学生寮管理運営事業

親元を遠く離れて県外で勉学する学生父母の経済的負担を軽減するとともに、良好な勉学環境を確保し有為な人材を育成するため、次の3寮を管理運営している。

令和元年度に要した経費は57,217千円で、その財源は、寮費と県補助金（寮監手当及び建物保険料等）である。

県外学生寮一覧表

平成31年4月末日現在

寮名	所在地	定員	部屋数	入寮人員
南 灯 寮 (男子寮)	東京都狛江市岩戸北4-14-18 (寮費：49,200円・44,000円、個室)	47人	47室	33人
沖 英 寮 (女子寮)	東京都世田谷区豪徳寺2-27-8 (寮費：60,800円、個室)	20人	20室	17人
大 阪 寮 (男子寮)	大阪府吹田市長野西7-31 (寮費：24,000円、個室)	13人	13室	4人
計		80人	80室	54人

※沖縄県と県有財産賃貸借契約書により3寮を管理しています。

④ 国際交流促進事業

本県の地理的・歴史的特性を活かして、諸外国との交流を推進し、沖縄県にふさわしい国際交流・協力拠点形成を目指して各種の事業を実施した。

ア 国際交流事業

(ア) ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業

沖縄県出身移住者の子弟等を選抜し、県内の大学や企業、伝統芸能習得機関で留学・研修させることにより、本県の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を深め、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋となる人材を育成した。

A	留学期間	2019年4月～2020年3月
B	受入人数	12名（県内大学・伝統芸能・企業）
C	受入留学生出身国	アメリカ合衆国・アルゼンチン共和国・カナダ・ボリビア 多民族国・ブラジル連邦共和国・ペルー共和国・中国（福建省）・韓国・台湾
D	留学受入先	琉球大学・沖縄国際大学・沖縄県立芸術大学・松本料理学院・JICA沖縄センター

イ 国際交流活動助成事業

(ア) ウチナー民間大使活動促進事業

沖縄県が認証する「ウチナー民間大使」が各自の専門分野・活動領域において、本県と在住国・地域等との交流の架け橋として実施する事業に対して、活動助成金を交付することにより、本県と世界各国地域の人的ネットワークの充実強化を図った。

A 助成件数：5件

B 交付総額：1,084,999円

大使名	国・地域	事業名	交付額
伊良皆 シゲオ マリオ	ブラジル	ロンドリーナ琉球舞踊グループ	300,000円
大城 洋子	フランス	琉球芸能紹介のための学校公演	120,000円
関戸 芳二	イギリス	London Okinawa Day 2019	160,000円
山内 優子	アメリカ	キャンプワラビー	305,000円
ワレリー マイストロヴォイ	ロシア	沖縄の文化・伝統と歴史の学習に特化した文化・スポーツ分野における若い教師育成プログラム	199,999円

(イ) ウチナーネットワークサポート事業

ウチナーネットワークを発展させる事業を行う自治体及び団体へ助成金を交付することにより、普遍的なウチナーネットワークの構築を促進した。

A 助成件数：1件

B 採択団体：名護市

C 事業者：ムルマジュン！「世界のウチナーンチュの日2019」

D 交付総額：488,076円

(ウ) 国際交流団体助成

県内における国際交流の振興を目的に、市民的な広がり期待できる国際交流事業に対して助成金を交付した。

A 助成件数：5件

B 交付総額：390,000円

団体名	事業名	交付額
沖縄インドネシア友好協会	2019インドネシア交流会	100,000円
沖縄友好協会	インドのひみつ写真展示	100,000円
南風原町立南風原文化センター	植物染料の魅力「捨てるものから価値あるものへ」～タイ国染色家を迎えて～	40,000円
(一社) 中国教育文化協会	第7回沖縄青少年中国語スピーチコンテスト	100,000円
沖縄県ユネスコ協会	令和元年度「ユネスコ」子どもの集い	50,000円

ウ 多文化共生社会推進事業

(ア) 国際交流・協力ボランティア養成・紹介事業

A 医療通訳ボランティア養成及び派遣事業

在住外国人等との共生社会に向けた環境整備の一助として、医療機関等を受診する際のコミュニケーションに不安を抱える在住外国人のために医療通訳ボランティアを養成し登録及び派遣紹介等を行った。

a 養成講座の実施（全7回）

通訳に必要な心構え、医療制度、病院のしくみ、医療に関する基礎的かつ最新の知識を習得するとともに、英語・スペイン語・中国語・韓国語の各言語に分かれて、実際の医療現場を想定したロールプレイを実践する場を与えることにより、多言語で医療通訳を担える人材の育成をした。

実施回数	2019年8月に全7回（1回4時間程度）
場所	財団3階ホール
受講者	20名（応募者70名）
修了登録者数	17名（英語6名 中国語5名 韓国語2名 スペイン語4名）

b ステップアップ講座の実施

通訳技術の向上を目指し、英語・中国語・韓国語・スペイン語の各言語により、様々な医療現場を想定し、ロールプレイを中心とした実践演習を通して参加者のスキルアップを図った。

実施回数	2019年10月5日・6日（講座）及びオンラインテスト
場所	沖縄産業支援センター
受講者	41名
修了者	20名（英語7名 中国語4名 韓国語1名 スペイン語8名）

c 登録ボランティア数

106名（多言語登録者を含む）

(英語59名・中国語15名・韓国語7名・スペイン語18名・OIST 7名)

d 関係機関へのボランティア派遣実績

30件（主な依頼元：恩納村・読谷村・中城村等）

B 災害時外国人支援サポーター養成及び紹介事業

災害時に外国人を支援し、行政や地域住民との橋渡しを担うサポーターを養成することで、本県における「防災・減災」の意識を高め島嶼県沖縄の地域防災力の向上を図った。

a 災害時外国人支援サポーターの養成

大規模災害時に外国人がことばや文化の違いにより避難所等で孤立し、要配慮者となることのない支援体制を確立するため、「災害時外国人支援サポーター」を育成し、大規模災害時に財団が開設・運営する「災害時多言語支援センター」と協力し、避難所巡回や情報の多言語化を担える人材を育成した。

沖縄本島内

日時	2019年5月（全6回：1回4時間）
場所	P's SQUARE・沖縄産業支援センター
参加者	43名
修了登録者	37名（過年度登録者1名を含む）

宮古島市

日時	2019年11月12日（火）～14日（木）（全3回）
場所	働く女性の家（ゆいみなあ）（宮古島市平良下里442）
共催/協力	宮古島市/宮古島観光協会
参加者	18名
修了登録者	17名

b 外国人被災者支援のための「オンライン避難者登録フォーム」活用セミナー

外国人観光客の帰国や健康状態、在住外国人のことばの壁等、大規模災害時に困難な状況に直面する外国人を支援するため、また避難所を巡回する職員や災害時外国人支援サポーターの円滑な情報収集を図るべく「オンライン避難者登録フォーム」を活用し外国人支援に役立てるセミナーを実施した。

日時	2019年7月11日（木）13:30～14:30
場所	P's SQUARE（浦添市西原2-4-1）
参加者	自治体職員や災害時外国人支援サポーター等24名

c 避難所運営訓練の実施

大規模災害発生の際、自治体職員の被災や行政機能の低下、人命救助の応急措置の実施などにより、行政が即座に地域に入ることが困難となることが想定されることから「災害時外国人支援サポーター」や地域住民を対象に本訓練を実施し「災害時多言語支援センター」や避難所を的確に運営するための手順を確認し基礎知識を深めた。

実施日時	2019年11月5日（月）9:00～16:00
場所	沖縄市農民研修センター 大ホール（沖縄市登川2380）
共催	沖縄市
振り返り講師	（一財）熊本市国際交流振興事業団 事務局次長 勝谷 知美
参加者	地域住民等100名

e 災害危機管理シンポジウムの実施

産・学・官のそれぞれの分野から講師を招き、これまでに取り組んできた先進事例を共有したほか、基調講演やパネルディスカッションを通して見出される災害危機管理上の課題や展望等について考える機会を持った。

実施日時	2020年1月14日（火）13:00～16:30
場所	沖縄産業支援センター 中ホール
講師/ パネリスト	■名古屋大学減災連携研究センター センター長 福和 伸夫 ■総務省沖縄総合通信事務所 総括調整官 防災対策推進室長 伊藤 弘道 ■気象庁沖縄気象台 地震火山課長 下坪 善浩 ■在沖米国総領事館 首席領事 政治軍事経済担当領事 ヒラリーダウアー ■株式会社セコマ 広報部長 佐々木 威知 ■(一財)ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎（復興庁復興推進参与）
参加者	沖縄県地域防災計画関係機関職員等140名

f 財団職員が講師として参加した行事

行事名	災害時外国人支援ボランティア養成講座
主催	沖縄市社会福祉協議会
日時	2019年6月12日・19日・26日（水）13:30～16:30
場所	沖縄市社会福祉センター

行事名	令和元年度災害救助法及び災害弔慰金の支給などに関する法律の施行事務担当者会議
主催	沖縄県子ども生活福祉部消費・くらし安全課
日時	2019年6月17日（月）13:30～17:00
場所	沖縄県庁4階講堂

g 災害時外国人支援サポーター登録者数

166名（本島：116名 石垣島：33名 宮古島：17名）

(イ) 外国人のための法律・生活相談

在留資格を問わず、外国人が地域住民として直面する諸問題に関し、専門的な助言や相談ができる窓口を開設し、外国人向けに多言語による生活相談を実施したほか、沖縄弁護士会と連携し在住外国人の生活面や労働面等を専門的に支援する法律相談を実施した。

また、地域住民向けに関連するシンポジウムやセミナーを開催し、外国人が抱える諸問題への理解を促した。

A 法律・生活相談対応件数：91件

相談内容	件数
在留資格・ビザ・旅券	19件
結婚・離婚・家族等	13件
労働・賃金・解雇等	10件
医療・健康・心理相談	8件
住居・不動産	8件
交通事故・損害賠償	4件
保険・年金	4件
刑事・犯罪・警察	3件
子ども・教育・学校	3件

借金・無収入・保証	1件
対人トラブル	1件
その他	17件
合計	91件

B ダイバーシティシンポジウムin沖縄2019の開催

今後増えゆく在住外国人との共生に向けて、直面することが予想される課題等への対応策について県内外から講師を招聘し基調講演やパネルディスカッションを通して考える機会を持った。

実施日時	2019年10月30日（木）13:00～16:00
実施場所	沖縄産業支援センター
参加者数	自治体・監理団体・教育機関関係者等60名
講師	■（一財）ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎 ■沖縄合同法律事務所 弁護士 白 充 ■沖縄科学技術大学院大学学園 副学長 永瀬 智

C 多文化共生セミナーの開催

多文化共生施策等の概要説明や実際の外国人相談窓口業務に関する事例を通して、多文化共生に関して考える機会を持った。

実施日時	2020年1月28日（火）13:00～17:00
実施場所	P's SQUARE
参加者数	自治体・監理団体・教育機関等関係者等40名
講師	■法務省福岡出入国在留管理局那覇支局 審査部門 統括審査官 下田 浩靖 ■沖縄合同法律事務所 弁護士 白 充 ■兵庫県国際交流協会外国人県民インフォメーションセンター スペイン語相談員 村松 紀子

（ウ） 外国語絵本読み聞かせ教室

在住外国人が社会参画できる機会を設け、多様な文化が共存する社会を推進するために外国人及び県民の親子を対象に、外国語による絵本の読み聞かせを行い、交流の場を提供した。（全7回/ 延べ181名が参加）

実施日	場所	読み聞かせ言語	参加者数
第1回：2019年7月28日（日）	北谷町立図書館	英語	33名
第2回：2019年8月4日（日）	西原町立図書館	英語	11名
第3回：2019年8月18日（日）	沖縄市立図書館	スペイン語	27名
第4回：2019年10月27日（日）	沖縄市立図書館	英語	26名
第5回：2019年11月10日（日）	沖縄市立図書館	中国語	29名
第6回：2019年11月24日（日）	北谷町立図書館	スペイン語	29名
第7回：2019年12月1日（日）	北谷町立図書館	英語	26名

（エ） 日本語読み書き教室

在住外国人を対象に漢字の基礎的な読み書き学習の場を提供することにより、本県で生活するにあたり必要となる諸手続等を円滑に行えるよう、日常生活に必要な識字（読み書

き) 能力の養成と勉学意欲の向上を図った。

実施期間	2019年4月19日（金）～ 2020年2月28日（金）
実施回数	全42回（毎週金曜日19時から21時）
実施内容	読み・書き等の日本語の指導
受講者数	毎回30名程度
補助ボランティアの参加	述べ112名

(オ) 国際理解・協力事業

A 高校生の主張コンクール・中学生の作文コンテスト

（公財）日本国際連合協会と連携し、中学生作文コンテスト地方予選及び高校生主張コンクールを実施し、国際理解や国際協力について考える機会を提供した。

a 国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール

実施日	2019年9月14日（土）
実施場所	P's SQUARE（浦添市西原2-4-1）
弁士	県内高等学校9校17名
その他	沖縄県地方大会最優秀賞を受賞した開邦高等学校3年生の鈴木 礼さんを日本国際連合協会主催の中央大会へ派遣。大会実施の結果、優秀賞（日本ユネスコ国内委員会会長賞）を受賞した。

b 国際理解・国際協力のための中学生の作文コンテスト

募集期間	2019年6月3日（月）～ 9月5日（木）
応募者	県内中学校5校から39名
その他	沖縄地方大会で最優秀賞に該当する作品がなかったため、日本国際連合協会主催の中央大会に出品した作品はなし。

B 第37回外国人による日本語弁論大会

県内に在住する外国人に国際交流・国際親善や日本・沖縄の社会や文化について日本語で発表する機会を提供し相互理解の増進と友好親善を促進した。

実施日時	200年2月9日（日）13:00～16:30
実施場所	浦添市てだこホール 大ホール（浦添市仲間1-9-3）
応募者数	37名（8カ国）
登壇者	12名（8カ国）
観覧者数	300名

C English and Cross-culture Seminarの実施

沖縄科学技術大学院大学の研究者及びスタッフとの協働により、本県の次世代を担う高校生から大学生程度の若者を対象に、国際理解や国際協力を促進するインプット型セミナーを定期的に実施することにより人材育成を図った（全5回/ 延べ53名が参加）。

実施日時	参加者数
第1回：2019年6月8日（土）9:30～16:00	17名
第2回：2019年8月3日（土）9:30～16:00	8名
第3回：2019年10月19日（土）9:30～16:00	14名
第4回：2019年12月7日（土）9:30～16:00	5名
第5回：2020年1月25日（土）9:30～16:00	9名

(カ) 国際交流団体等連携事業

多文化共生のまちづくりを推進するため、各種国際交流機関及び国際交流団体等との連携を図った。

A 地域国際化協会連絡協議会総会への参加（東京都：2019年5月22日）

- B 2019年度沖縄県国際交流団体連絡会議の開催(2019年7月12日)
- C 九州地区地域国際化協会連絡協議会総会への参加
(熊本市：2019年10月23日・24日)
- D おきなわ国際協力・交流フェスティバルの共催(2019年11月2日・3日)
- E 沖縄地域留学生交流推進協議会への参加(2019年12月5日)
- F 九州地区地域国際化協会連絡協議会実務者研究会への参加
(佐賀県：2019年11月22日)
- G 広報誌等の発行
・広報誌「国際おきなわ」：年1回発行
・情報誌「いちやり場通信」：年3回発行
- H 行政視察の受入

受入日	受入団体
2019年7月2日	岐阜県美濃加茂市議会文教民生常任委員会
2019年8月28日	東京都江戸川区議会文教委員会

I インターンシップ生の受入

受入期間	インターンシップ生	受入元
2019年7月29日～8月2日	イ アヒョン (韓国)	慶熙大学

3 役員会等の開催

(1) 理事会の開催状況

①第1回理事会(平成31年4月1日(決議の省略))

区 分	議案 番号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団代表理事 の選定について	承認

②第2回理事会(令和元年6月11日)

区 分	議案 番号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団平成30年 度事業報告について	承認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団平成30年 度収支決算について	承認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団専門員会委 員の選出について	承認
	4	定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等 について	承認

監 査 報 告	平成30年度事業報告及び財務報告の監査結果
---------	-----------------------

報告	1	理事長職務執行状況報告
	2	基本財産の運用状況について

③第3回理事会（令和元年7月8日（決議の省略））

区分	議案 番号	議 案 事 項	結果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団代表理事の選定について	選任

④第4回理事会（令和元年11月1日（決議の省略））

区分	議案 番号	議 案 事 項	結果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団臨時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について	承認

⑤第5回理事会（令和2年3月16日）

区分	議案 番号	議 案 事 項	結果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和元年度収支予算の補正について	承認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和2年度事業計画について	承認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和2年度収支予算について	承認
	4	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団中期経営計画の策定について	承認
	5	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団職員の健康情報等の取扱いに関する規程の制定について	承認
	6	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団学生寮管理運営事業における固定資産の処分について	承認
	7	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金貸与等事業における特定資産の償却について	承認
	8	臨時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等	承認

報 告	1	理事長職務執行状況報告
-----	---	-------------

(2) 評議員会の開催状況

① 第1回評議員会（令和元年6月26日）

区 分	議案 番号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団平成30年度事業報告について	承認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団平成30年度収支決算について	承認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団役員の選任について	選任
	4	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団評議員の選任について	選任

監 査 報 告	平成30年度事業報告及び財務報告の監査結果
---------	-----------------------

報 告	1	理事長職務執行状況報告
	2	基本財産の運用状況について

② 第2回評議員会（令和元年12月4日（決議の省略））

区 分	議案 番号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団評議員1名の選任について	選任

③ 第3回評議員会（令和2年3月23日）

区 分	議案 番号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和元年度収支予算の補正について	承認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和2年度事業計画について	承認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和2年度収支予算について	承認
	4	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団学生寮管理運営事業における固定資産の処分について	承認
	5	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金貸与等事業における特定資産の償却について	承認

報 告	1	理事長職務執行状況報告
-----	---	-------------

(3) 各種専門委員会の開催状況

① 第1回 奨学生選考委員会（開催日：令和元年6月6日）

区 分	議案 番号	議 案 事 項	結 果	備 考
議 題	1	令和元年度貸与奨学生の選考について ア 大学院貸与奨学生 イ 大学貸与奨学生 ウ 専修学校（専門課程）貸与奨学生 エ 高等専門学校貸与奨学生 オ 高等学校奨学生 カ 高校育英貸与奨学生 キ 高校育英貸与奨学生（専修学校（高等課程））	承認	大学院 5人 大学 33人 専修（専門） 6人 高専 1人 高等 7人 高育 315人 高育（専修高等） 5人 計 372人
	2	令和元年度委託給与奨学生の選考について	承認	委託給与 2人
	3	令和元年度高校育英貸与貸与奨学生の緊急採用について	承認	

② 第2回 奨学生選考委員会（開催日：令和元年11月12日）

区 分	議案 番号	議 案 事 項	結 果	備 考
議 題	1	令和元年度貸与奨学生の選考について ア 留学貸与奨学生 イ 在沖繩米軍施設・区域内大学貸与奨学生 ウ 大学貸与奨学生（追加採用） エ 専修学校（専門課程）貸与奨学生（追加採用） オ 高等学校奨学生（追加採用） カ 高校育英貸与奨学生（追加採用）	承認	留学 6人 施設 1人 大学 9人 専修（専門） 1人 高等 2人 高育 26人 計 45人
	2	令和2年度貸与奨学生（予約採用候補者）の選考について ア 大学貸与奨学生 イ 高校育英貸与奨学生	承認	大学 37人 高育 103人 計 140人

③ 第1回 在沖縄米軍施設・区域内大学就学者推薦委員会（開催日：令和元年6月17日）

区 分	議案 番号	議 案 事 項	結 果	備 考
議 題	1	令和元年度在沖縄米軍施設・区域内大学就学に係る被推薦者の選考について	承認	大学 2人 ブリッジプログラム 41人 計 43人

4 寄附の受け入れと基金の設置

(1) 令和元年度寄附金の受入

令和元年度は個人・団体から延べ19件、総額5,553,560円の寄附があった。寄附者は下記のとおり。（敬称略、寄附順）

- ・O氏（8回） ・医療法人大平会 ・又吉 正一 ・A氏 ・永井 良和 ・伊波 寛
- ・久高 康男 ・小川 知子 ・斉藤 秀規 ・一般社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会
- ・一般社団法人沖縄県測量建設コンサルタンツ協会 ・公益社団法人久米国鼎会

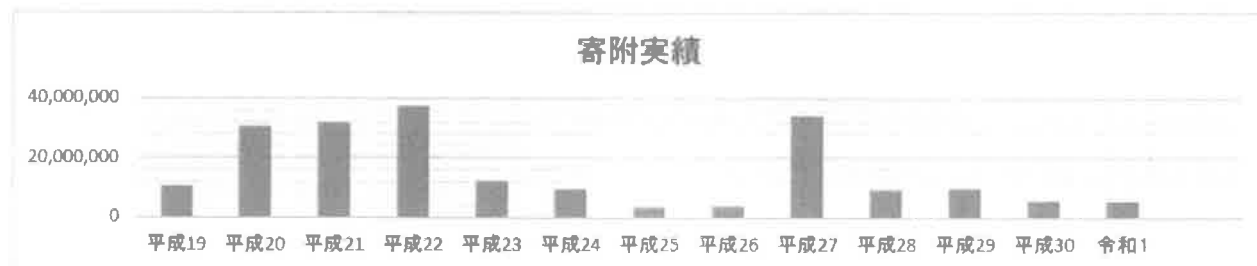
(2) 年度別寄附金の実績

① 人材育成事業の寄附金の推移は次のとおりである。

（単位：円）

年 度	昭26～昭56	昭57～平18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24
寄附件数	1,781	4,502	15	26	39	35	29	24
金 額	190,752,185	1,182,759,400	10,430,000	30,480,434	31,815,002	37,334,200	12,265,240	9,450,430
年 度	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1	合 計
寄附件数	20	21	25	23	25	20	19	6,604
金 額	3,400,508	3,810,000	34,129,263	9,196,313	9,656,000	5,655,460	5,553,560	1,576,687,995

人材育成事業寄附金推移グラフ



② 国際交流・協力事業への寄附金の推移は次のとおりである。

(単位：円)

年 度	昭56～平12	平成13～22	平成 2 4	平成 2 5	平成 2 7	平成 2 8	計
寄附件数	—	1 4	1	1	1	1	1 8
金 額	74, 572, 031	2, 593, 110	76, 970	50, 000	119, 350	101, 563	77, 513, 024

※平成23年度、平成26年度、平成29年度、平成30年度及び令和元年度は寄附無し。

(3) 既設篤志奨学基金への追加寄附

令和元年度は、二つの奨学基金に対し追加の寄附あり、追加の金額は合計で1, 700, 000円であった。

① 「沖縄県軍用地等地主会連合会奨学基金」

寄 附 者：一般社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会

今回寄附金： 1, 000, 000円

寄附金合計：24, 000, 000円

② 「社団法人久米国鼎会奨学基金」

寄 附 者：公益社団法人久米国鼎会

今回寄附金： 700, 000円

寄附金合計：17, 261, 000円

(4) 既設篤志奨学基金一覧

財団法人沖縄県育英会設立以降、篤志家が沖縄県の人材育成のためにと本財団に寄附した寄附金のうち、その額が1千万円以上については寄付者の功績をたたえ、その名を永劫に残すとともに、それによって県民の人材育成に対する意識の高揚を目指して、篤志奨学基金設置規程に拠り、その寄附金に対して寄付者の名称を冠している。

令和2年3月末現在 (単位：円)

番号	篤志奨学基金の名称	基金額	趣 旨
1	瀬長良直奨学基金 (東京都新宿区：昭和47年)	12, 500, 000	東京の三越百貨店を退職なさった時の退職金の一部を本土復帰を記念して沖縄の後輩のために奨学金として
2	下地玄信奨学基金 (大阪府豊中市：昭和48年)	25, 000, 000	日本公認会計士協会副会長・近畿支部長を勤めた下地玄信氏が、本土復帰を記念して自分もかつて沖縄県奨学生だったので、その恩返しも含めて

番号	篤志奨学基金の名称	基金額	趣 旨
3	日高妙子奨学基金 (大阪府和泉市：昭和48年)	10,000,000	母校国立東京芸術大学音楽学部（元上野音楽学校）に沖縄県出身の後輩が入学した場合、自分も音楽学校在学中月々の学費に困ったことがあり、優秀な音楽家を育てたいとの趣旨
4	日高詠明奨学基金 (大阪府和泉市：昭和50年)	10,000,000	日高妙子様から「名護市出身の亡夫詠明氏の沖縄県の人材育成の資に供してもらいたい。」との遺志により
5	生命保険奨学基金 (那覇市：昭和49年)	115,728,000	民間の生命保険会社において、戦前沖縄でご加入いただいた生命保険契約について特別の分配金を付加して支払い、完了することができたが、約1億円ちかい未払い額を残すことになり、そこで生命保険会社では、沖縄のためにとの趣旨
6	沖縄銀行奨学基金 (那覇市：昭和51年)	25,000,000	同銀行の創立20周年記念
7	琉球銀行奨学基金 (那覇市：昭和53年)	26,000,000	同銀行の創立30周年記念
8	琉球石油奨学基金 (那覇市：昭和55年)	23,000,000	会社創立30周年を記念
9	金城善信奨学基金 (那覇市：昭和56年)	27,000,000	名護市済井出出身・丸善第一産業株式会社社長・第一食糧株式会社元取締役を歴任した金城善信氏が、沖縄県の振興開発を担う人材を育成するために
10	赤嶺仁平奨学基金 (浦添市：昭和58年)	40,000,000	古希を迎えたのを記念に社会に役立ちたいと「人材育成は早くからの念願だった。少しでも役に立ってもらったら幸いです。」との趣旨
11	ひめゆり同窓会奨学基金 (那覇市：昭和58年)	100,000,000	同窓会の事業目的を生かすべく、教育機関の設立や奨学事業資金として集めた額を、沖縄県の女子教育のための奨学資金として活用してもらいたい。

番号	篤志奨学基金の名称	基金額	趣 旨
1 2	沖縄海邦銀行奨学基金 (那覇市：昭和62年)	20,000,000	株式会社 沖縄海邦銀行は、普通銀行へ転換し、新生「沖縄海邦銀行」としてスタートした記念
1 3	又吉久正奨学基金 (那覇市：昭和63年)	10,000,000	知事が行政施策の重点に上げている「社会福祉の充実」「人材育成の振興」「国際交流の振興」の各事業について、日頃から共感し、これらの事業の推進の一助として
1 4	K婦人（東京在）奨学基金 (東京都：平成元年)	10,000,000	東京に住む匿名の七十代の女性から、終戦直後、沖縄県出身の友人から悲惨な沖縄戦の模様を聞き、そのことを心にとめ、「沖縄のみなさんへのお見舞いと次代を担う若い人たちのために活用してもらいたいとの気持ちから」
1 5	方治先生中琉友好記念奨学基金 (中流文協：平成元年)	11,049,724	中琉友好親善交流に多大な功績を残した故方治先生の未亡人沈士芳女史から、中琉文化経済協会を通じて、故方治先生の沖縄の青年育成と中琉友好協力の遺志を達成するために
1 6	琉球セメント奨学基金 (那覇市：平成元年)	20,000,000	平成元年、創立30周年を記念し、また、沖縄県の次代を担う有為な人材育成に役立てて欲しいと寄附を頂き創設された。
1 7	おきでん民営化記念奨学基金 (浦添市：昭和48年)	100,000,000	沖縄電力株式会社社長松岡政保氏が、昭和48年から毎年寄附し5年後「沖縄電力奨学基金」を設立した。その後、民営化に伴う記念事業として寄附され、基金の名称も「おきでん民営化記念奨学基金」とした。
1 8	サンエー奨学基金 (宜野湾市：平成2年)	75,000,000	同社は、ご支援御愛顧を賜りました県民の皆様へ感謝し、創立45周年を記念して
1 9	沖縄協会奨学基金 (東京都千代田区：平成2年)	10,000,000	戦後の沖縄の復興、人材育成、復帰等に多大な貢献をしてこられた財団法人沖縄協会は、沖縄県の21世紀を担う有為な人材を育成するため

番号	篤志奨学基金の名称	基金額	趣 旨
2 0	和宇慶朝善奨学基金 (沖縄市：平成 2 年)	50,000,000	和宇慶朝善氏は、生前、常日頃から本県の振興開発に深い関心を払われ、遺産を何か県に役立てて貰いたいと話されており、一周忌を終えるにあたり、家族のみなさまが、故人の御意志に沿い寄附をされた。
2 1	大城鎌吉奨学基金 (那覇市：平成 3 年)	10,000,000	大城鎌吉氏は、昭和 5 7 年から毎年の寄附があり、1 0 年後に基金を設立した。
2 2	国場幸太郎奨学基金 (那覇市：平成 3 年)	11,000,000	国場組の創設者である、故国場幸太郎氏は、生前から本県の振興開発に強い関心を払われ、その人材育成に熱心であり、故人の遺志に沿い創立 6 0 周年を記念して
2 3	金秀グループ奨学基金 (那覇市：平成 4 年)	14,500,000	金秀本社社屋落成記念及び創業 2 0 周年記念して
2 4	公立学校等退職記念奨学基金 (退職者：平成 4 年)	40,459,527	退職するに当たって、県の人材育成策に協力しその奨学事業の一助とするため、退職金から 1 万円ずつ出し合い「退職記念人材育成基金」をつくり、財団に贈呈。この基金造成は、昭和 6 2 年度に始まり、後輩に引き継ぎ郷土の発展を担う多様な人材の育成を側面から支えていきたい
2 5	奨学生卒業記念奨学基金 (父母：平成 5 年)	30,527,333	当財団の奨学生の父母で組織する「沖縄県人材育成財団奨学生父母の会」は、育英奨学制度の恩恵を受けたことに対する感謝の念を具現化するため

番号	篤志奨学基金の名称	基金額	趣 旨
26	沖縄返還20周年記念行事 民間実行委員会奨学基金 (東京都千代田区：平成5年)	20,000,000	実行委員長 竹下登、委員長代行 小渕恵三、幹事 末次一郎氏は、沖縄返還20周年を記念して、政府主催による記念式典、記念セミナー、記念シンポジウム等「沖縄返還の歴史的意義と新しい時代の日米関係の展望」を開催し、沖縄返還に関する学術的研究と歴史的資料を作成するなど、多彩な記念行事を行い、各方面から寄せられた協力金の一部を沖縄に対する何らかの寄与したいことから、人材育成に役立ててもらいたいとの趣旨
27	大同火災海上保険奨学基金 (那覇市：平成6年)	46,100,000	創立20周年記念
28	オリオンビール奨学基金 (浦添市：平成9年)	10,000,000	創立25周年を迎えるにあたり、報恩感謝、地域社会への貢献。創立40周年記念と併せて設立
29	留学記念奨学基金 (留学生：平成13年)	12,469,293	財団の助成を受けて国外留学した者で組織する「沖縄県国際交流・人材育成財団留学生会」が1人でも多くの留学生が派遣出来るよう財団の基金造成事業に協力することを決定した。
30	小渕恵三メモリアル奨学基金 (那覇商工会議所：平成13年)	10,000,000	小渕恵三総理の功績と英断に対し感謝の意を込めて、平成13年4月23日サミット開催地であった「万国津梁館」の敷地内に「小渕恵三／九州・沖縄サミットメモリアル」を建立、資金は広く県民から募り予定額以上が集り、その一部を人材育成にとの趣旨
31	医療法人大平会奨学基金 (浦添市：平成13年)	31,500,000	嶺井進院長より、将来を担う人材の育成に役立ててもらいたいとの趣旨
32	儀間教育振興会奨学基金 (浦添市：平成14年)	14,000,000	儀間常亀氏は、平成5年人生の節目となる米寿を迎えるにあたり、財団法人儀間教育振興会を設立。同財団の設立許可を得られた記念に、儀間常亀市の育英事業の趣旨に沿うべく当財団への寄附となった。

番号	篤志奨学基金の名称	基金額	趣 旨
3 3	サダちゃん先生奨学基金 (那覇市：平成15年)	10,000,000	座波貞子氏は、興南高等学校で家庭科教えておられる教諭で、平成6年から毎年寄附いただき、平成15年度に御自身出版された「サダちゃん先生」のタイトルを名称として設立した。
3 4	比嘉正範奨学基金 (滋賀県大津市：平成15年)	10,000,000	故比嘉正範先生は、1950年第一回ガリオア留学生として米国派遣され、ハーバード大学から教育博士号を授与された。先生のご逝去にあたり、これからの沖縄県の振興発展に寄与できる人材の育成に役立てていただきたいという、真弓夫人の意志に基づき設立
3 5	儀間紀善奨学基金 (那覇市：平成15年)	10,000,000	平成12年2月にジーマ(株)・ジーマックス(株)会長就任記念として
3 6	沖縄ガス創業者 湧川善三郎奨学基金 (那覇市：平成17年)	10,000,000	本県の発展に寄与する国際性豊かな人材の育成に役立ててよう1千万円寄附された。会長で創業者の湧川善三郎氏(故人・平成17年7月26日ご逝去)の育英事業へのご功績を称え「沖縄ガス創業者 湧川善三郎奨学基金」を創立
3 7	沖縄県軍用地等地主会連合会 奨学基金 (那覇市：平成17年)	24,000,000	沖縄県の次代を担う有為な人材育成に役立ててほしいと、平成13年に2百万円、平成15年に4百万円、平成16年と平成18年に2百万円のご寄附があり、累計で1千万円となりましたので「沖縄県軍用地等地主会連合会奨学基金」を創立
3 8	源河朝明 幸子奨学基金 (東京都世田谷区：平成17年)	50,000,000	沖縄県の次代を担う有為な人材育成に役立ててほしいと、平成18年1月13日に5千万円の御寄附をいただき、ご本人と奥様のお名前を冠して「源河朝明 幸子奨学基金」を創立
3 9	沖縄県立農林学校同窓会奨学 基金(嘉手納町：平成18年)	100,000,000	思い出の土地を、未来を担う若者の人材育成に役立てて頂きたいと1億円の御寄附をいただき、「沖縄県立農林学校同窓会奨学基金」を創立

番号	篤志奨学基金の名称	基金額	趣 旨
4 0	オーキッドバウンティ夢基金 (那覇市：平成18年)	10,000,000	ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメントのプロアマ大会御出場各位の御理解と御支援のを基に浄財を募り「オーキッドバウンティ」と称して、大会開催地である沖縄県の芸術・文化、スポーツ、教育等の振興に携わる公益団体等へ、その活動を支援することを目的に、寄附金又は奨励金を贈呈しているもので、審査の結果、その寄附金の贈呈先として当財団が選出されたものです。寄附金は、平成10年から平成18年の間に計900万円をいただき、平成19年に100万円をいただいたことから、累計で1千万円となりましたので、「オーキッドバウンティ夢基金」を創立
4 1	社団法人久米国鼎会奨学基金 (那覇市：平成21年)	17,261,000	沖縄県の人材育成に広く役立てて欲しい、学費の関係で進学できないでいる学生にこまやかな部分からの支えに使ってもらいたい、これからの社会の担う子供たちに夢と希望を与えて頂きたい等の趣旨により、昭和47年から、当財団へ寄附して頂いているもので、平成21年度の御寄附で1,000万円に達したことにより創設
4 2	吉永久仁男奨学基金 (東京都三鷹市：平成24年)	10,000,000	戦争中は、筆舌に尽くし難い犠牲を払われ、現在も基地問題等で大きな負担をしておられる沖縄県の皆様方の為、本土の人間として少しでもお役に立ちたいとの思いから、沖縄県の将来を担う人材育成の為、財団を通じお手伝いをさせていただくことにしたもの等の趣旨により、平成16年から、当財団へ寄附して頂いているもので、平成24年度の御寄附で1,000万円に達したことにより創設された基金
	基金の合計	1,222,094,877	

(5) 基金造成状況

当財団の基金は、昭和28年（1953年）3月に特殊法人琉球育英会の設立にあたり、琉球政府が運用資金として拠出したのが始まりで、沖縄県育英会、沖縄県人材育成財団に引き継がれ、現財団に引き継がれた基金である。

令和2年3月31日現在の基金総額は下記表のとおり4,361,646千円で、その内個人・団体からの寄附金（沖縄県及び市町村からの寄附金を除く。）の総額は1,607,978千円となり、基金総額に占める割合は36.87%となっている。

① 人材育成事業

(単位：千円)

基金の種類	金額	割合 (%)
1. 県出捐金	540,500	15.36
(1) 沖縄県からの出資金	(510,000)	(14.49)
(2) 琉球政府からの出資金	(30,500)	(0.87)
2. 市町村出捐金	200,000	5.68
3. 国からの補助金等	1,108,843	31.51
4. 対米請求権奨学基金	142,000	4.03
5. 個人・団体からの寄附金	1,527,966	43.42
合 計	3,519,309	100.00

② 国際交流事業

(単位：千円)

基金の種類	金額	割合 (%)
1. 沖縄県からの寄附金	662,325	78.63
2. 市町村からの寄附金	100,000	11.87
3. 個人・団体からの寄附金	80,012	9.50
合 計	842,337	100.00

総 合 計 (前 年 度)	4,361,646 (4,358,667)
------------------	--------------------------

5 評議員・役員

(1) 評議員

令和2年3月31日現在

評議員	下 地 イツ子	沖縄県PTA連合会会長
評議員	本 永 静 江	沖縄県婦人連合会会長
評議員	猿 渡 一 枝	沖縄タイムス社編集局局長
評議員	小 成 善 保	沖縄県高等学校長協会会長
評議員	儀 間 秀 樹	沖縄県教育庁教育管理統括監
評議員	山 城 貴 子	沖縄県文化観光スポーツ部文化スポーツ統括監

(2) 役員

令和2年3月31日現在

理 事	與那嶺 善 道	沖縄県国際交流・人材育成財団理事長
理 事	福 治 嗣 夫	沖縄県商工会議所連合会常任幹事
理 事	金 城 克 也	沖縄県経営者協会会長
理 事	平 敷 昭 人	沖縄県教育委員会教育長
理 事	宮 城 光 秀	沖縄県高等学校PTA連合会会長
理 事	石 原 昌 英	琉球大学国際地域創造学部長
理 事	佐 野 景 子	独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター所長
監 事	上 里 芳 弘	沖縄県中小企業団体中央会専務理事
監 事	知 念 政 博	沖縄県町村会事務局長

